

登録コード:MH414300 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	身体障害作業治療学Ⅱ【20M以降】 Occupational Therapy for physical dysfunction: Part 2		
担当教員	上村 智子		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	作業療法学専攻/3年 前期 木曜・3時限		
単位数、講義室	1 単位	保健学科 1 2 1 講義室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		⇔ 授業の達成目標
	MH20カリ・保健		
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。	⇔	脳血管障害、脊髄損傷、関節リウマチ、末梢神経・腱損傷の対象者に作業療法を実施できるようになるために、各疾患を理解し、作業療法の評価技法と治療・指導・援助法を修得する。
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。	⇔	身体障害の作業療法の評価・治療計画の立案手続きを修得する。
	MH25カリ・保健・作業、MH23カリ・保健・作業		
	＜基礎的・専門的な知識と技能＞保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	⇔	脳血管障害、脊髄損傷、関節リウマチ、末梢神経・腱損傷の対象者に作業療法を実施できるようになるために、各疾患を理解し、作業療法の評価技法と治療・指導・援助法を修得する。また、身体障害の作業療法の評価・治療計画の立案手続きについても修得する。
	＜科学的探求力＞変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	⇔	多様な健康問題に対して、作業療法士の視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に対応していく探究心と、対象者の課題に応じた安全で効果的な治療実践に向けて、生涯をかけて取り組む力が身についている。
授業で学べる「テーマ」	健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	本授業では、身体に障害のある人の作業療法を計画して、実施するための基礎的知識と技術について学習します。具体的には、作業療法の対象疾患である脳血管障害、脊髄損傷、関節リウマチ、末梢神経損傷、腱損傷の対象者への作業療法について学習し、事例を用いた作業療法治療計画立案の演習を行います。 本授業は、1年次に学んだ「中枢神経解剖学」「運動学」と2年次に学んだ「身体障害評価学実習」「臨床医学系科目」「身体障害作業治療学1」を前提に学ぶことになります。そして、4年時の臨床実習における重要な基礎知識となります。 本授業は、担当教員の医療機関における作業療法士としての実務経験を活かして講義を行います。本授業は男女共同参画の内容を含んでいます。		
授業計画	第 1回 (4月 9日) 脳血管障害者の作業療法1 第 2回 (4月23日) " 2 第 3回 (5月 7日) " 3 第 4回 (5月14日) 治療計画立案演習1 (ペーパーケーススタディ評価) 第 5回 (5月21日) " 2 (ペーパーケーススタディ治療計画) 第 6回 (5月28日) 脊髄損傷者の作業療法1 第 7回 (6月 4日) 治療計画立案演習3 (実習セミナー) 第 8回 (6月11日) 脊椎損傷者の作業療法2 第 9回 (6月18日) 脊髄損傷者の作業療法3 第10回 (6月25日) 治療計画立案演習4 (ペーパーケーススタディ報告会) , ノートの点検① 第11回 (7月 2日) 関節リウマチ者の作業療法 第12回 (7月 9日) 末梢神経損傷者の作業療法 第13回 (7月16日) 腱損傷者の作業療法 第14回 (7月23日) 疾患別作業療法のまとめ, 第15回 (7月30日) ノートの点検②, 授業アンケートの実施 第16回 (8月 6日) 期末試験		
授業の進め方	授業は教科書と配布資料に基づいて進めていきますが、能動学習による理解の深化を目指すため、質疑応答にも重きをおいて展開します。また演習では、ペーパーケーススタディによる治療計画の立案、臨床実習セミナーへの参加、授業で取り上げる5疾病の対象者の作業療法に関連する既習の内容を含めた知識を体系的に整理する課題を実施します。		
テキスト、教材、参考書	テキスト ＊山口昇・玉垣努編：身体機能作業療法学（第4版）医学書院 2021 ＊前田眞治：脳画像 医学書院 2017 資料を配布します。 参考書は授業で紹介します。		
成績評価の方法	演習課題と筆記試験の結果に基づいて、総括的に成績を評価します。総括評価の配分は、①ペーパーケーススタディ35%、②臨床実習セミナーのレポート5%、③ノートの体系的整理20%、④ 筆記試験40%とし、総計の60%以上を合格とします。ペーパーケーススタ		

成績評価の方法	ディ、レポート、ノートの体系的整理は授業理解60%、自修学習30%、資料作成10%で評価します。それぞれ、上記の通りに実施します。
成績評価の基準	筆記試験と演習課題の成果による成績評価の判定基準は、下記の通りとします。 90－100点：秀、80-89点：優、70－79点：良、60-69点：可 なお、演習課題と筆記試験の成果の評価基準は、授業で説明した範囲における、最低限の基準にあれば「水準にある（可）」、やや詳細な内容であれば「やや上にある（良）」、十分に詳細な内容であれば「かなり上にある（優）」、授業で説明した範囲以上に自身で能動的に学習した詳細な内容であれば「卓越している（秀）」と判定します。
事前事後学習の内容	【事前学習について】 授業の終わりに、次回までに学習すべき内容について説明を行います。 【事後学習について】 授業の初めに、前回の授業で復習した内容や能動学習として学んだ内容についての質問を受けます。ノートの整理では、臨床医学、身体障害評価学や治療学でなど、既習の学習内容も含めて、体系的に整理し、能動学習で学習した内容を含めてください。 本授業の単位取得には45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間30時間（2時間×15回）＋事前・事後の自己学習時間15時間（1時間×15回）＝45時間 ※以上の自己学習時間を考慮して、事前・事後学習に意欲的に取り組んでください。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	本科目は、既修または並行して学習する臨床医学系科目などの知識を基盤としています。また、作業療法評価学実習を進める上で基礎となる科目でもあります。他と関連づけながら学習を進めてください。 質問への対応 上村智子 tkamimu@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：木曜日12時～13時 保健学科中校舎4階 上村研究室